

保幼小中一貫教育だより ～豊かな自然と豊かな人材で豊かなこどもを育てる～



豊能の風

発行：豊能町教育委員会 第24号 R2. 6. 15

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）について - PART.3 - 「地域に開かれた学校」から「地域とともにある学校」へ

各学校では、授業支援、環境整備作業、登下校の見守り、放課後子ども教室など、地域と学校の連携・協力体制が構築されており、保護者や地域住民等、多くの関係者が学校の取組や子ども達に関わる機会が増えました。そこで重要になるのが、学校・家庭・地域で情報及び課題・目標・ビジョンの共有を確実に行うことです。そのために、地域とともにある学校の運営においては、学校運営協議会で行う協議に加え、**熟議・協働・マネジメント**の3つの視点をもって共有をしていきます。

一方が他方に「お願い」をし、それに対して「支援をする」という、貸し借りのような関係ではなく、コミュニティ・スクールは、輝く子ども達の未来の創造に向けて、学校と地域がパートナーとして**連携・協働**して取組を進めていくことが重要になります。

1. 熟議

「熟議」とは、多くの当事者による「熟慮」と「議論」を重ねながら課題解決を目指す対話のことです。「協働して取り組む一連の自主的、実践的な活動」を「話し合い」を重ねながら生み出そうというものです。そして、「すぐにできる取組」から協働活動へつなげていきます。

【具体的なプロセス】

- (1) 多くの当事者（保護者・教職員・地域住民等）が集まって、
- (2) 課題やビジョンについて「熟慮」し、「議論」することにより、
- (3) 互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに、
- (4) それぞれの役割に応じた解決策や方策が洗練され、
- (5) それぞれが納得して自分の役割を果たすようになる。



2. 協働

「協働」とは、同じ目的・目標に向かって、対等の立場で協力して共に働くことです。

3. マネジメント

学校は、校長のリーダーシップのもと、目指すべきビジョンの達成に向かって学校内の組織運営を管理することにとどまらず、地域との関係を構築し、地域人材や資源等を生かした学校運営を行っていく力が必要です。

待ちに待った学校園のスタート

例年より2か月遅れ、6月1日から段階的に教育活動を再開しました。各学校園所においては、感染及びその拡大のリスクを可能な限り低減できるよう、「3密の回避」「マスクの着用」「手洗い」「消毒」などの感染対策を継続し、子ども達の健やかな学びを保障していきます。



～吉川小学校の様子～
延期されていた入学式が、規模を縮小し短時間で行われました。

～東能勢中学校の様子～
3密に配慮した学習環境の中で、子ども達は集中して学習に取り組んでいます。



～ふたば園の様子～
「始まりの会」が行われ、みんなが揃ってのスタートとなりました。「窓を開けて、友達と間を空けて集まっているのはどうしてでしょう？」と問いかけると「コロナだから！」という声が返ってきました。お昼寝も、広い場所で布団と布団の間をあけています。いつもと違う環境になかなか寝付けない子もいましたが、しばらくは安全第一で過ごします。